



茨城新聞

5/5
[日曜日]

古里学び誇り持って

中2生に 郷土検定

県教委、11月に各市町村で 1～3級認定、県大会も

子どもたちの古里に対する愛着や誇りを育て、本県の魅力アップにつなげようと、県教委は本年度、中学2年の生徒を対象にした「いはらきっ子郷土検定」を実施する。得点に応じて1～3級を認定する。検定は各市町村で行い、来年2月には県大会でチャンピオンを決める。県教委は「楽しみながら本県の伝統や文化を学んでほしい」としている。

県教委によると、小、中を合わせた、既に昨年度、中学生が古里の文化や、同様の趣旨で、特色をたいて学校、小学生を対象に自分たで学ぶ機会、小学、ちで見つけた地域目標、3、4年の社会科の授業の作文やホームページ、葉などのほか、少ないを募集するコンクール、の加現状、さら、子どもを始めている。

県教委によると、小、中を合わせた、既に昨年度、中学生が古里の文化や、同様の趣旨で、特色をたいて学校、小学生を対象に自分たで学ぶ機会、小学、ちで見つけた地域目標、3、4年の社会科の授業の作文やホームページ、葉などのほか、少ないを募集するコンクール、の加現状、さら、子どもを始めている。

「地元のことを知る、地元を自慢できない子どもが多い。検定を通じて郷土愛を育てたい」とする。

昨年実施した県政世論調査によると、「茨城県に誇りを持っているか」との問いに対し、「持っている」と回答した割合は60.1%にとどまった。また、民間シンクタンクが調査した昨年の都道府県別魅力度ランキングは、4年連続最下位を免れたものの依然46位と低迷している。

県は、他の都道府県なら十分に魅力としてアピールできることを、意外に知らない県民が多いこと、子どもたちの郷土愛の成果に期待している。

(小池忠臣)